

# アジア：独自の成長が期待されるEV市場

イーストスプリング・アジア・ナウ

Vol.65

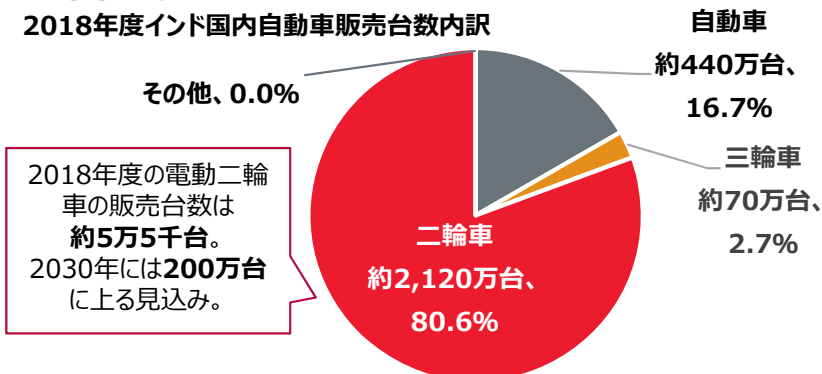
eastspring  
investments

## 政府がEV化を促進、スタートアップ企業も

### アジアでは電動二輪車が注目

- ▶ 近年高まる環境問題等を背景に、電動車技術の開発と導入が世界的に進められています。調査会社である富士経済の予測では、電気自動車（EV）の世界販売台数が2021年にはハイブリッド車等を抜いて主力となる見通しで、2035年には現在の17倍の2,202万台にまで急成長するとしています。
- ▶ 交通渋滞等による大気汚染が問題となっているアジア各国では、政府がEV化促進の方針を打ち出しています。中でもインドネシアはアジアのEVハブを目指し、2022年からEVの製造を本格化、2025年までに自動車生産台数の20%をEVにする目標を立てています。今年の8月8日に発表されたEVの促進に関する政令では、EV製造における原材料の現地調達率を段階的に高めるように規制する等、アジアのEV製造拠点へ向けた政策を推進しています。
- ▶ アジアで特に注目されているのが、バイクのEV化です。交通インフラが十分に整備されていない国では、バイクが市民の重要な足となっており、通勤等にバイクタクシーが多く利用されています。こうした状況を受けて、アジアの多くの国がバイクのEV化を促進しようとしています。

#### 2018年度インド国内自動車販売台数内訳



2018年度の電動二輪車の販売台数は約5万5千台。2030年には200万台に上る見込み。

タイの三輪タクシー「トゥクトゥク」。2022年までにEV化を進める計画。



(写真/アセアンセンター)

出所：SIAMのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

### 地場メーカーの台頭で推進が期待されるEV化

- ▶ 今年インドでは、政府がバイクの電動化を義務付ける案の検討に入ったと報じられ、もしこの政策案が採用されれば、国内で販売する排気量150cc以下の全てのバイクやスクーターを2025年までに電動化しなければならなくなります。世界最大のバイク市場と言われるインドでバイク電動化が進められれば、インドが世界の電動バイク業界をリードする可能性があるかと予想されます。
- ▶ 有望視される電動バイク産業には、地場メーカーの参入も始まっています。2013年にインド工科大学の卒業生によって設立された「Ather Energy」は、インド初のインテリジェント・エレクトリック・スクーターを開発しました。モバイルアプリと連携したタッチスクリーンダッシュボードや充電ステーションの決済をスマホアプリで行える等、インドのIT技術を活かした製品開発を行っています。
- ▶ タイでもEV産業の誘致を目指し、公共交通機関や公用車のEV化を進めていく方針を示しています。庶民の足であり、タクシーとしても利用される三輪自動車「トゥクトゥク」を、2022年までにEVに切り替える計画を発表しました。すでに大手配車アプリのグラブは、東南アジアで初めて電動トゥクトゥクの配車サービスを北部チェンナイ県で開始しています。
- ▶ また、タイ国内では、スタートアップ企業の「イートラン」が国営タイ石油公社（PTT）などの支援を受け、電動バイクの販売を開始、2017年設立のベンチャー企業「リアボン・ニューエナジー」が電動トゥクトゥクの開発・販売を行っています。また、政府主導でトゥクトゥクに自動運転技術を取り入れる実証実験が行われる等、産業としてEV生産を促進しようとしています。
- ▶ 各国でEV技術の開発・促進が進めば、アジアがEV産業のグローバル拠点となることが期待されます。

※当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。※また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。※当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料の内容は作成日時時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。※また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。※当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。※当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

#### イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。